

瀬戸内サーカスファクトリーの、サーカスによる青少年育成、教育活動について

【瀬戸内サーカスファクトリー活動理念】

2011年に代表の田中が香川県に移住し、現代サーカス発信の活動を始めて翌年に、日本でほとんど例がなかった本格的創作サーカス作品「100年サーカス」の制作を機に、香川県内の有志が田中のもとに集まり、瀬戸内サーカスファクトリーという団体が発足し、以来、以下の理念に基づいて活動しています。

- 現代サーカスを通じ、「地方」に独創的な新しい文化を生み育て、世界に発信する
(レジデンス事業、フェスティバル、ネットワーキング)
- 現代サーカスを通じ、子どもや若者に、競争ではない個性の表現や、生の身体感覚や重要性を、呼びかける (フィジカルアートトレーニング事業)
- 現代サーカスを通じ、高齢化や過疎の地域に再び活力を生みだし、年代を超えた交流をもたらす
(レジデンス事業、創作事業など)
- 現代サーカスに関連する人材育成 (アーティスト、技術者、指導者、制作者)と雇用の創出

瀬戸内サーカスファクトリーは、唯一無二のサーカス作品をつくり発信する創作集団であり、これまでに大小20本ほどの作品を発表しています。日本国内でこれほどの作品を定期的に創作し、発表している団体は他にありません。また同時に、現代サーカスに関わる人々が生きていける仕組みをつくり、提案していくことを目指しています。

【青少年育成】

瀬戸内サーカスファクトリーは、2014年から単発の子どもや若者向けサーカスワークショップを開催し、ボランティアの学校訪問も数多く行い、これまでに10校以上、約2500人の子どもたちに国内外のサーカスアーティストと子どもたちの交流を実施してきました。

現代の子どもたちが、体を直につかって遊ぶことが少なく、自分や他人の身体を知らないために起こる問題が多くなったと感じています。サーカスの特徴は、「楽しい」こと。そして普段の生活では知りえない感覚を知ること。サーカスには種目が多く、俊敏さ、柔軟さ、力強さ、表現力など、種目によって能力はさまざままで、どんな子どもでも、ひとつは得意なものが見つかると言われていました。

サーカスは真剣さと努力が必要ですが、競争ではなく、その人らしい個性、表現につながればよく、正解は子どもの数だけあります。そうしたサーカスの特色を利用して、より多くの子どもたちが、生き生きと身体を動かし、自由に想像力を働かせ、他人と助け合うようになってほしいのです。

【その他の社会活動】福祉団体やアウトドアを通じた環境問題啓発団体などとの定期的コラボレーション。

【ジャグリングの普及について】

日本において、現代サーカスの種目の中で唯一ジャグリングだけがすでに一般に広く知られ、多くの人が実践している身近な種目で、現代サーカスの魅力を伝える扉としての役割を担っています。私どももこれまで地域のジャグリングサークルに協力を求め、ジャグリングワークショップも多く行ってきました。しかし十分な数のジャグリング道具を用意するのは容易でなく、毎度、各所から借用しながらなんとか継続しています。私たち自身が十分な数と種類のジャグリング道具を持てれば、更に定期的にたくさん子どもや若者にジャグリングの魅力を伝えられます。

【記録写真】 これまでの瀬戸内サーカスファクトリー青少年育成、社会活動記録（一部）



プロ・エアリアルアーティスト長谷川愛実による
子ども向けエアリアル入門ワークショップ



フランス人プロフラフープ&バランス芸アーティスト
ジュロによる高校生向けフラフープワークショップ



もとフランス国立サーカス学校 CNAC 教授
ベルナール・カンタルによる親子サーカス WS



ベルナール・カンタル中学校訪問



高松市開催パラ陸上競技大会にて
市内在住の障がい者 80 人と練習を経てパフォーマンス。
県内高校生ジャグラーも協力。

